

令和6年度 文学部 歴史学科
学校推薦型選抜 小論文

○出題意図・評価のポイント

【出題意図】

出典は馬部隆弘『椿井文書—日本最大級の偽文書』（中央公論新社、二〇二〇年）で、出題は「次の文章を読んで、時代区分や地域をまたいで歴史を研究することの意義を、具体例をあげながら八〇〇字以内で論じなさい」である。これは、歴史学に携わる者が史料を取り扱う際、多角的な視点（古代/中世/近世/近現代という時代区分及び地域の特性など）から歴史的事実を引きだすべきということを出題文から読み取った上で、解答者自身はどのような姿勢で史料に対峙すべきか、という回答を求めるものである。

【評価のポイント】

評価する点は次のとおり。

- ・ 出典の内容を正しく読み取れているか。
- ・ 自分自身の考えを論理的に説明できているか。
- ・ 適切な具体例を挙示できているか。
- ・ 文字表記・文法・言葉の用法等、文章上の問題はないか。

以上の諸点を総合的に判断する。